

今月のことば

大いなる
ものの力に
ひかれゆく
わが足あとの
おぼつかなしや

(九條武子『無憂華』)

龍谷大学非常勤講師

小池秀章
こいけひであき

大いなる ものの力に ひかれゆく
わが足あとの おぼつかなしや

(大いなる、み仏さまのはたらきに導かれている、
私が今まで残してきたものの、何と、はつきりせず、
たよりなことか)

この和歌は、九條武子さんが詠まれた和歌の中で、最も有名なものの一つです。武子さんは、仏教婦人会や、京都女子大学の創設にご尽力された方で、関東大震災の時、自らも被災者でありながら、救援活動を活発に行なわれた方でもあります。

武子さんが歌文集『無憂華』を出版される時、「その巻頭に色紙一葉を是非入れてほしい」という要望があったことから作られたのが、この和歌です。

大谷嬉子元裏方(本願寺派第二十三代門主大谷光照夫人)は、仏教婦人会総連盟の機関誌『めぐみ』四六号の巻頭言の中で、

「私どもは、このお歌から、み仏さまの広大な慈悲につつまれて、たどたどしい足どりで日々をかさねて来たのは、この私ども自身であったことに気づかされ、また、未来永劫に、み仏さまのお慈悲は、私どもをあたたくつつんで下さる―三世をつらぬくみ仏さまの慈光―ということを、感ぜずにはおられません。」

と述べておられます。
み仏さまのお慈悲の光につつまれた日々を、一步一步大切に生きていきたいものです。

合掌

●お詫びと訂正

『保育資料 まことの保育』2024年5月号の【今月のことば】につきまして、文章中の【『歎異抄』第二条】は【『歎異抄』第七条】の誤りでした。お詫びして訂正いたします。